

10. 高知県保健師交流大会

1) 事業概要

平成 26 年より開始した本大会は、今年で第 6 回を迎える。大会の趣旨は高知県内の保健師が専門職者としての自己研鑽の機会を得ることで、今後の実践活動に活かしていくとともに、相互交流をとおし保健師間のエンパワメントを図ることである。「保健師の仲間で悩みや不安を語りあい、エンパワメントされること」、「高知県の保健師の歴史を振り返り、高知県で働く保健師の良さを継承すること」、「保健師の専門性を再確認し、自分たちの今後の保健活動にいかしていくこと」を 3 つの柱に継続している。そして、毎年、4 月に実行委員会を立ち上げ、市町村衛生職員協議会、職能団体、教育機関、高知市、高知県の保健師が企画・運営を行っている。

今年度は「災害支援」をテーマに、平成 30 年 7 月豪雨における高知県内での被災状況や災害時保健師活動の実際、岡山県への保健活動チーム派遣支援の実際の体験を話題提供者 3 名にお話しいただき、ワールドカフェの手法を用いたグループワーク、全体共有を行った。

日時：平成 30 年 1 月 26 日（土）13:30～16:00

場所：高知県立大学池キャンパス 共用棟 B1F 食堂ホール

話題提供者：宗石こずゑさん（香美市健康介護支援課）

テーマ：「豪雨災害における孤立地域への支援を振り返って」

・山本優さん（大月町保健介護課）

テーマ：「平成 30 年 7 月豪雨の保健師活動について」

・西岡綾子さん（中央西福祉保健所）

テーマ：「平成 30 年 7 月豪雨における岡山県への保健活動チーム派遣支援の経験から」

・ワールドカフェ

・全体共有

2) 事業成果

県内保健師（県立大学部生・大学院生含む）合計 64 名が参加した。ワールドカフェでは、保健師が日々感じている課題や、この度経験した災害時保健活動事例に基づく課題提起、解決策の提案、具体的なイメージ化等、保健師活動年数や所属を問わず、県内自治体保健師がさまざまな視点から語り合う機会となった。

【話題提供者】

・宗石こずゑさん（香美市健康介護支援課）

テーマ：「豪雨災害における孤立地域への支援を振り返って」

概要：香美市の孤立地域の住民への安否確認のための訪問や民生委員、地元消防団、地区長等との連携、透析患者の搬送について等、豪雨後の保健師活動について報告。保健師の日ごろからの地区活動を通じて住民と顔の見える関係の重要性等について挙げられた。

・山本優さん（大月町保健介護課）

テーマ：「平成 30 年 7 月豪雨の保健師活動について」

概要：西日本豪雨直後からの活動の実際について報告。状況把握調査や、消毒対応、健康状況の把握等を実践した中で、日ごろからの連携や情報整理等についての必要性が挙げられた。

・西岡綾子さん（中央西福祉保健所）

テーマ：「平成 30 年 7 月豪雨における岡山県への保健活動チーム 派遣支援の経験から」

概要：保健師の派遣支援第 1 班（7 月 10 日～14 日）、真備町での活動の実際について報告があった。また、熱中症予防、感染症対策、ストレスによる不安・不眠への対応、妊婦、慢性疾患や認知症等、災害時要配慮者に関する支援について、被災直後の状況把握に関する課題について述べられた。日ごろから関係機関との連携やつながり、危機管理対策について共有することの大切さが挙げられた。

3) 事業評価

参加した本学学部生からは、「地区住民と保健師の平時からのつながりの大切さ」や、「避難訓練等で、衛星電話等、自治体の役割を踏まえた備えを行っておくこと」「日ごろから住民の方の防災意識を高めること」「災害時には主体的に情報収集を行い、住民の安全を守る必要性」「被災者ももちろんのこと、支援者の精神的、身体的サポートも行うことの大切さ」等、発災時、行政の保健師として求められる役割と具体的な事前の備えについて実例を踏まえ、「ワールドカフェで保健師と語り合う機会を持つことで学びにつながった」等の感想をいただいた。本学大学院生からは、「西日本豪雨災害の被災地域での住民支援が道路状況の把握を含んでいたことや、ドクヘリに乗って住民のもとへ向かう必要性や専門性を言語化した経験、日頃の備えへの関わり等、環境との関連の中で『住民中心』の保健師マインドをたくさん学ばせていただきました。」等の感想をいただいた。

今回の交流大会では、アットホームな雰囲気の中で、保健師が様々な情報交換を行い、共有することで、有事の際の活動実践や日々の保健師活動を振り返り、検討する機会となった。今後も平時から県内の自治体保健師間でも経験知を積み重ね、顔の見える関係が有事にも生きることにしても再確認した。